

Title	複合形容詞の語彙ネットワーク研究
Sub Title	A research on the radial category of the compound adjectives
Author	篠原, 俊吾(Shinohara, Shungo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>2020年4月の申請時は下記2つプロジェクトの達成を目的として申請を行なった。</p> <p>(1) 「形容詞語彙ネットワーク構築」プロジェクトの一環として、可能表現に関する複合形容詞の語彙ネットワーク研究に向けてのデータ収集</p> <p>(2) 「行為、行為者、対象」を含む因果関係の図式の再構築に向けて研究 ( 複数年プロジェクト ) の基礎研究。</p> <p>(1) に関しては、申請時に希望していたPCなどの機器を購入の上、データ収集を中心とした作業を行い、-ableを語尾に持つ形容詞の複雑な意味のネットワークの構築を目指した。購入機器は、web上のデータの収集と仮説の照合の際、大いに役立った。また、研究内容を学内外における研究会で発表し、その結果をまとめ、論文 ( 「接尾辞-ableを伴う複合形容詞について - 「できる」とはどういうことか- 」 ) の形で『認知言語学研究』(第6巻) ( 日本認知言語学会編, 開拓社 ) に掲載予定 ( 2021年3月末刊行 ) 。</p> <p>(2) に関しては基礎研究 ( 複数年予定 ) の初年度として、今までの論点を整理し、行為と因果関係に関する周辺的な問題の1つである転喻と推論の問題をまとめることができた。この成果の一部は、学内の研究会で発表し、論文 ( 「時間の換喻とその周辺」 ) の形で『教養論叢』142号 ( 慶義塾大学法学会、2021年3月刊行 ) として発表した。</p> <p>当初予定していた研究目標に関しては、概ね達成することができた。ただ、(2)に関しては、基礎的な部分を確認し、論点を整理する域に止まっているので、次年度におけるさらなる取り組みが必要である。また、資金面で当初予定していた通りの資金の配分が達成できなかったため、この点は今後の反省材料としたい。</p> <p>In this project I have attempted to (1) collect data in order to make a comprehensive research on the radial category of the compound adjectives and (2) investigate the roles played by the concepts of action and participants in coding the elements of the situation into linguistic structure. (1) produced some positive results and I presented a paper "Dynamic Interpretations in Adjectives with the Suffix -able" in Journal of Cognitive Linguistics Vol.6. Also, I have made some progress in (2) and presented a paper "Metonymy, Metalepsis, and Related Issues" in Kyoyo-Ronsho.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200035">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200035</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	法学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	篠原 俊吾	氏名 (英語)	Shungo Shinohara		
研究課題 (日本語)						
複合形容詞の語彙ネットワーク研究						
研究課題 (英訳)						
a research on the radial category of the compound adjectives						
1. 研究成果実績の概要						
2020年4月の申請時は下記2つプロジェクトの達成を目的として申請を行なった。						
(1) 「形容詞語彙ネットワーク構築」プロジェクトの一環として、可能表現に関する複合形容詞の語彙ネットワーク研究に向けてのデータ収集						
(2) 「行為、行為者、対象」を含む因果関係の図式の再構築に向けて研究(複数年プロジェクト)の基礎研究。						
<p>(1) に関しては、申請時に希望していたPCなどの機器を購入の上、データ収集を中心とした作業を行い、-ableを語尾に持つ形容詞の複雑な意味のネットワークの構築を目指した。購入機器は、web上のデータの収集と仮説の照合の際、大いに役立った。また、研究内容を学内外における研究会で発表し、その結果をまとめ、論文(「接尾辞-ableを伴う複合形容詞について-「できる」とはどういうことか-」)の形で『認知言語学研究』(第6巻)(日本認知言語学会編, 開拓社)に掲載予定(2021年3月末刊行)。</p> <p>(2) に関しては基礎研究(複数年予定)の初年度として、今までの論点を整理し、行為と因果関係に関する周辺的な問題の1つである転喻と推論の問題をまとめることができた。この成果の一部は、学内の研究会で発表し、論文(「時間の換喻とその周辺」)の形で『教養論叢』142号(應義塾大学法学会, 2021年3月刊行)として発表した。</p> <p>当初予定していた研究目標に関しては、概ね達成することができた。ただ、(2)に関しては、基礎的な部分を確認し、論点を整理する域に止まっているので、次年度におけるさらなる取り組みが必要である。また、資金面で当初予定していた通りの資金の配分が達成できなかったため、この点は今後の反省材料としたい。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
In this project I have attempted to (1) collect data in order to make a comprehensive research on the radial category of the compound adjectives and (2) investigate the roles played by the concepts of action and participants in coding the elements of the situation into linguistic structure.						
(1) produced some positive results and I presented a paper “Dynamic Interpretations in Adjectives with the Suffix -able” in Journal of Cognitive Linguistics Vol.6. Also, I have made some progress in (2) and presented a paper “Metonymy, Metalepsis, and Related Issues” in Kyoyo-Ronsho.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
篠原 俊吾	接尾辞-ableを伴う複合形容詞について-「できる」とはどういうことか-	日本認知言語学会	2021年3月			
篠原 俊吾	時間の換喻とその周辺	教養論叢	2021年3月			